

京都・鳥羽離宮跡

とばりきゅう

が配されていた。

今回報告する鳥羽離宮第九七次及び一〇二次調査は、田中殿とよばれる御所に付属する御堂、金剛心院の調査である。金剛心院は鳥

- 所在地 京都市伏見区竹田小屋ノ内町・淨菩提院町
- 調査期間 一 一九八四年（昭59）四月～九月、二 一九八四年一〇月～一九八五年一月
- 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
- 調査担当者 鈴木久男・吉崎伸

- 遺跡の種類 離宮跡
- 遺跡の年代 平安時代後期
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要

鳥羽離宮は応徳三年（一〇八六）白河天皇の後院として平安京の

南郊、鴨川と桂川が合流す

る地点の北側に造営が開始

された。後には鳥羽天皇に

よつて事業が継続され、一

二世紀半ばまで続いた。百

余町に及ぶ広大な敷地には
数カ所に御所と御堂からなる
建物群が営まれ、それを
取り巻くように広大な園池

羽法皇によつて仁平三年（一一五三）に造宮が開始され、院内には
釈迦堂と九体阿弥陀堂が造られた。これまでに実施された調査で、
東西一六五m南北一七一mの寺域の中央部に釈迦堂、その南西に九
体阿弥陀堂とみられる基壇が検出されており、寺域の東側に広大な
園池が確認されている。

木簡類は、第九七次調査において園池（池一四）から一点、第一
〇二次調査において池への導水路（溝四〇）から一点、計二点出土
した。これらの調査では、他に木製漆塗りの垂飾・光背・台座、金
銅製の瑠璃・垂飾・卒塔婆などの仏教遺物が多く出土している。

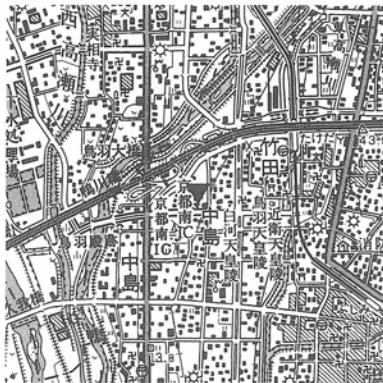
8 木簡の釈文・内容

一 第九七次調査

(1) □□□□

(128)×37×4 061

卒塔婆の五輪塔部分に梵字らしきものが書かれている。同じ遺構
からは、他にも一二点の卒塔婆が出土しており、いずれも厚さ七mm
ほどの板材の頭部を五輪塔の形に成形したもので、脚部の形状によ
つて二種類に分けられる。脚の先端を尖らせるものと、先端を平た



（京都西南部・京都東南部）

塔を表現したものと一部を省略したものの二種類に分けることができる。また、五輪塔の下部に仏像の墨絵を描いたものが一点あり、風輪や空輪を墨で黒く塗りつぶしたものもある。また、卒塔婆の約半数には中央部に一~四個の釘孔があいており、一部に木釘が残存している。

二
第一〇一次調查

(1) 「物忌咄天北急々律□」〔令カ〕

493×58×7 051

呪符（物忌札）である。上端は圭頭状に切り欠き、下端は両側面を削って尖らせて いる。

9 關係文獻

財京都府埋蔵文化財研究所編『鳥羽離宮跡 I 金剛心院跡の調査』(京都市埋蔵文化財研究所調査報告 10、2001年)

(吉崎
伸)

